

企業局経営プランにおける令和4年度実績（自己評価）に対する意見

鳥取県企業局経営プラン評価委員会

【令和4年度実績評価】

項目		委員意見	評価区分の見直し等	
事業別事項	1 電気事業	①供給電力量 (CO2 排出量削減)	<ul style="list-style-type: none"> 供給電力量は、降水量減のため、特に最大発電規模の新幡郷が前年より大きく落ち込み（前年比△17%）、全体として目標達成率が大きく落ち込んだ。 令和5年度予定の新幡郷のリニューアル工事、先日の豪雨で被害にあった佐治発電所の復旧に全力を入れることが喫緊の課題である。 他、故障への早期対応や交換部品の発注時期の工夫により電力の安定供給に努め、CO2 削減を推進している点は評価できる。 	B
		②売電方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 当年度における「他県等の情報収集を行っているというのでは」はいかにも不十分である。契約の問題もあろうが、早急な是正措置が必要であり、今後の入札にあたっては、効果的な方法を考えていくことも検討されたい。 県内3社に供給が実施されて、地産地消に配慮されていて良いが、金額にとらわれるのではなく地元貢献ということも配慮されてもいい。 	S⇒A
		③発電所リニューアル事業の実施及び検討	<ul style="list-style-type: none"> コンセッション対象の4発電所のリニューアル工事はコンセッションの効果もあり予定通り順調に推移している。 	S
		④経常収支比率	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率は74.6%と目標値（73.6%）を若干上回っているが、供給電力量減を運転経費減で補ったものであり、前年度に比べ大幅な赤字となっている。 予想赤字幅を縮小できたとして高い評価としているが、経常収支比率のみで判断すべきではなく、総合的に見るべきものである。 なお、このたび行ったコンセッションの評価を行い、今後の電気事業のあり方について検討を行っていくことが必要である。 	S⇒B
		⑤地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 適地が減少したのかもしれないが、地域と連携した小水力発電について、新たな事業はないため、更なる努力が必要である。 また、コロナ禍で見学会実施回数が減ったことは残念だが仕方ないことである。 なお、地元自治会に小水力発電所の管理業務が委託され関心をもってもらうのも良いことである。 	B
		総括的事項	<ul style="list-style-type: none"> コンセッション実施という節目の難しい時期に鋭意努力している点は評価できるが、企業家精神を発揮して新たな局面（更なる難題）に立ち向かっていただきたい。 なお、令和4年度実績の評価に影響するものではないが、令和5年8月の台風による佐治発電所内への浸水については、今後の経営に影響が出る懸念がある。 	
事業別事項	2 工業用水道事業	①新規需要開拓	<ul style="list-style-type: none"> 工業用水供給を取り巻く厳しい環境の中で、他局と連携して大きな成果を上げている点が評価される。 	S
		②施設の適正管理（日野川）	<ul style="list-style-type: none"> 漏水対策箇所数基準で評価を行うことが適正であるかどうかは議論があるところであるが、一定の漏水対策等の維持管理業務を行っており、評価される。 また、漏水の事前対策、修繕の計画的実施、老朽化施設の耐震化・更新に要す費用の財源確保のために利用料金の値上げを防ぐ方策の検討が必要である。 	A
		③経常収支比率	<ul style="list-style-type: none"> 厳しい環境の中で、新規ユーザー効果もあり経常収支比率は目標を達成しているが、電気料金高騰に伴う管理設備の電気代増が赤字幅を増やす等、赤字が継続していることもあり評価は低く差し置いた。 	B

項 目		委 員 意 見	評価区分の 見直し等	
項	総括的事項	<ul style="list-style-type: none"> 工業用水を取り巻く環境は更に厳しくなっている。県における工業用水の位置づけを明確にし、そのあり方を含め根本的な検討が必要である。 なお、令和4年度実績の評価に影響するものではないが、令和5年8月のユーザー企業の鳥取工場での生産終了発表に伴う将来の減収可能性について、今後の経営に影響が出る懸念がある。 		
	3 埋 立 事 業	土地の分譲	<ul style="list-style-type: none"> 分譲の進展により債務超過を解消したのは評価できる。 なお、更なる分譲への努力、地域の賑わいをもたらすような一段と高い用地開発に向けた努力に期待したい。 	B⇒A
	4 共 通 事 業	人材育成と業務体制の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の中で、ワークライフバランスの方に重点が置かれておりやむを得ない面もあるが、コンセッション事業者との交流を通じて更なる事業感覚を持った人材の育成に努めていただくことを期待したい。 働き方改革、ワークライフバランスの推進など実際に勤務時間が短くなったことは評価できる。 また効率を上げるためにドローンなどの機器を活用して改革を進めていることも評価できる。今後さらに進めることが大切である。 	A
総括的事項		<ul style="list-style-type: none"> コンセッションの実施、既発電所の運営管理、工業用水事業に存する根本的な課題等、企業局は大きな曲がり角に来ている。特に、令和5年度はこれを増幅させるような事象も起こっているため、企業家精神を発揮して更なる努力を望みたい。 また現在及び将来の企業局の事業展開を考えた場合には人材確保が重要な取組事項となるものと思われる。 		